

教育経済建設常任委員会行政視察報告書

荻原 久雄

○愛知県岡崎市

大河ドラマを契機とした観光振興について

【所見】

今年の大河ドラマ「どうする家康」の徳川家康生誕の地である岡崎市を訪問し、観光振興に対してどの様に対応しているのかお伺いした。大河ドラマを契機とした観光振興は、地域の歴史や文化を取り上げ、それをドラマとして放送することで、その舞台となった地域への観光促進を図る取組である。これにより、観光業界の振興や地域経済の活性化が期待される。

大河ドラマは、その時代背景や歴史的な出来事をドラマ仕立てで描いている。これにより、視聴者はその地域の歴史や文化に触れることができ、地元の観光協会や自治体は、ドラマで紹介された歴史的な名所や伝統文化などの魅力を積極的に発信し、観光資源としてアピールし、観光客増加に寄与している。岡崎市には、「どうする家康」活用推進課があり、市役所全体で振興している。

また、新しい政策として、「どうする家康」岡崎大河ドラマ館を建設し、岡崎城と岡崎公園内を散策し、今までの観光とコラボレーションしながら、観光客を呼び込むようにしている。足利市も太平記館を造り、史跡足利学校とコラボレーションし、八木節発祥の地としてのPRをしている。

その他、現代に絶対に必要となっている、観光客の趣味嗜好に即したネット上での情報発信を実施していた。

観光客のモチベーションを上げ、観光発展に寄与する企画があった。大河ドラマ館では、来館者にコレクション性の高い来館記念ノベルティとして来館記念証やステッカーを寄贈していた。ステッカーは、スマートフォンのケースに入る大きさに、経費1枚約30円程度である。PR効果は大きく、足利市でも実施できればと思う。



○愛知県瀬戸市

小中一貫校について

【所見】

小中一貫校の取組は、一貫した学習環境や教育方針を提供し、児童・生徒がよりスムーズに学び、成長できるようにすることが目的である。小学校から中学校までの期間で安定した学習環境が提供され、これにより、児童・生徒は安心感を得て学ぶことができ、進学準備が早い段階から進められるため、生徒はよりよい進路を選択しやすくなる。一貫校では、小学校から中学校までが一つの教育プログラムに統合され、単なる学力向上だけでなく、総合的なスキルや人間性の育成が促進され、文武両道や豊かな教養の養成が期待される。とされている。

足利市の公共施設管理マネジメントでは、人口減少のなかで、42.2%の公共施設を減少させる計画である。そのなかでも特に重要な課題は、小中学校の統廃合だ。出生率の低下で、令和4年に生まれた子供の数は622名であった。小中学校の統廃合を早急に実施すべきである。

瀬戸市では、5つの小学校と2つの中学校を統廃合し、令和2年に小中一貫校として「にじの丘学園」を開校した。瀬戸市小中学校PTA連絡協議会が「適正規模適正配置の推進を求める要望書」を提出し、その後、約6年で開校している。1,100人の児童生徒数であり、建設費63億円は4つの省庁からの補助金を活用した。また、廃校した学校の1つに私立の学校ができたそうである。

担当者の説明を聞いている時に心に響いたのは、教師でもある担当者の熱心な発想とプラス思考の考え方である。統廃合において教師の数は減少させていない状況であるが、段階的に減っていくと思う。小中学校の減少により、削減できる予算を子供達に補助し、将来の夢へつなげられればと思う。足利市でもできる限り早く実現したい。

「にじの丘学園」校歌に「1,000年」という歌詞が3か所ある。作詞作曲した弓削田健介氏はキャンピングカーで日本全国をまわり、スクールコンサートしているそうである。1,000年後を考えた、実際の学園の風景は素晴らしいと思う。